

地域の絆 ～安心・安全なまちづくり～
(自主防災組織立上げ準備会)

江津市 郷田コミュニティ協議会

1 郷田コミュニティ協議会の概要

郷田コミュニティ協議会は活動地域が3つの地区があり、それぞれの歴史がある。

◎ 高浜地区は、国道9号やJR山陰本線「江津駅」開通により、江津市の中心市街地として栄えてきたが、現在では往時の繁栄は見え、空き店舗等が多くあるが、近年、中心市街地として生活道路の整備、駅前再開発として公共施設の建設や宿泊施設の整備が進められている。

少しずつではあるが、賑わいが戻っている。

◎ 本町地区は、古くから江の川の舟運と日本海の手運の要所として栄えた。郷田村、江津町、江津市と変遷する中で、行政、経済の中心として栄えてきたが、昭和37年市庁舎の移転により、中心も高浜地区に移り変わった。

繁栄を物語る歴史や廻船問屋、旧郵便局、旧江津役場、多くの神社・仏閣がある。

◎ 金田地区は、江の川の左岸にあり、河口江津町の上流に位置し、ほとんどが山林で、背後に島の星山系の丘陵が江の川にせり出している。細長い帯状の平地も千香山で区切られている。

江の川上流域を田ノ村、下流千金と言っていたが、明治8年(1875)に合併し金田村となり、明治22年に江津町と合併した。

土地は農業に適し住民のほとんどが農事に携わっている。千金は稲作、田ノ村は畑作を行っている。

2 事業の趣旨

郷田地域コミュニティ協議会の「自主防災組織」の立上げに向かって、地域の防災・防犯について「課題」を見つけ、それぞれの課題の解決策を見つけ出し、地域の安心・安全につなげる。

防災を考えることで、防災以外の地域課題も住民同士が見つけ出し、解決方法を見いだすことで、支え合う「自助・公助・共助」の生まれる地域づくりを目指す

3 具体的な取組内容

3地区でどのような課題が考えられるか、防災担当者、地区住民による「グループワーク」を行い検討した。

【高浜地区】

地震・火災に弱い・津波の被害も考えられる。

木造住宅が密集し、路地が多く生活道路も狭く緊急車両の進入が困難な地域。避難場所が明確にされていない。

【本町地区】

木造家屋が多く地震、火災に弱い。

空き家が多く防犯上不安がある。

災害時一人暮らしの高齢者の安否確認に不安がある。

風水害に弱い。

【金田地区】

生活道路が1本しかなく(県道三次江津線)土砂崩れなどで孤立する恐れがある。

江の川沿いに位置するため、水害の恐れがある。

地震災害では、津波による被害が考えられる。

避難場所が無い。

4 評価と成果

【防災講演会】開催

地区住民の防災に対する意識がなく、防災についてあまり関心のなかった住民から、「防災講演会」に参加し講演を聞き身近に災害を感じ、防災に対する意識の向上につながった。

【地域課題について】グループワーク

「防災安全部会」を中心に地域住民と地域の課題について話し合い、自分たちの地域課題を知ることにより、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識が湧いて来れば成果となる。

5 今後の課題と見通し

郷田コミュニティ協議会では、活動地域が大きく分けて、3地区ありそれぞれの地域は災害時の弱点が異なり、多くの課題が残る。

- ① 地域ごとで、防災に対する温度差が見られるなど、低調な地域等の活性化を図らなければならない。
- ② 地域住民の高齢化により地域防災活動の担い手が不足している。
- ③ 大きな災害が地域内で発生していないため防災意識が希薄である。

◎ 自主防災組織の立上げの準備をし、組織の活動、組織の編成、防災訓練の内容等を検討し地域住民がこれにより、防災活動がスムーズに活動できるように準備する。

(文責：郷田地域コミュニティ交流センター)
(氏名：センター長 村川 立美)



防災講演会の様子

